

## “麻”とは名ばかり、実はバナナの仲間でした。



CURETEX は日本国内で生産された和紙を糸にしていますが、その和紙の原料は「マニラ麻」です。

ところで、「マニラ麻」ってどんな植物かイメージできますか？

気になって調べたところ、新宿御苑の温室に植栽されていたので見に行ってきました。

「マニラ麻」と表示されていたのは、かなり小ぶりながら、バナナの木そっくりの植物。

それもそのはず、「マニラ麻」はアサ科の植物ではなく、なんとバナナと同じバショウ科の植物だったのです。

どうやら“麻”というのは「繊維を採る植物」を表す通称で、アサ科の植物ではなくても“麻”と呼ぶことがあるのだとか。

「マニラ麻」も、分類上はバナナの仲間ながら繊維の原料になるので“麻”と呼ばれ、原産地であるフィリピンの首都に由来する“マニラ”の名がつけられたようです。ちなみに学名は「*Musa textilis* Née」、英名の「アバカ」が使われることも多いですね。

バナナもマニラ麻も6メートルくらいの高さになり、まるで木のように見えますが、実は多年草、つまり“草”なんです。

葉鞘という皮のようなものが  
茎を包むように巻き付いているのが特徴。

この、皮のような葉鞘から繊維が採れ、  
和紙の原料にもなるというわけです。

葉っぱは大きな楕円形で、これまたバナナそっくり。

光を通す美しいグリーンの葉。  
くっきりと鮮やかな葉脈のラインに  
丈夫な繊維のイメージが重なりました。